

2017年 関東ブロック救助隊交流集会報告書

2017/3/13

松戸山の会(水谷記録)

3月8日(水) 県連事務所にて搬出訓練の事前学習(事前配布資料あり)

講師:徳永さん、参加者:森田、水谷

- ・コンパニオンレスキュー:ビーコンの使用法、ビーコンチェック手順、プローブ操作、掘り出し方法他
- ・弱層テスト:シャベルコンプレッションテスト、エクステンデットコラムテスト他
- ・持参装備の確認(プローブ2本、240cmスリング貸出し)

3月11日(土)

参加者:34名(千葉県からは、まつど遠足:西村、鈴木、かがり火:佐藤、
松戸:森田、水谷、ちば山:住田が参加)

12:00 土合山の家集合受付

13:15 開会

○講義:「救助時における警察と民間との関係について」

講師:馬場氏(元群馬県警谷川救助隊隊長)

過去はバリエーションルートでの事故が多かったが、現在は一般登山道での救助要請が多くなっている。

谷川岳エリア(沼田警察署管轄)ではヘリ救助が中心。救助要請者からの電話連絡で警備隊がヘリコプターで出動する。警察ヘリが点検中の際は消防ヘリが出動する。

民間の救助はここ10年ほど活動はない。

初動救助は警察は1週間程度実施する。山岳会救助は初めから関わる。

馬場氏が活動中は沼田警察署は民間・警察が一体となって探索活動を行っていた。

警察と民間の協力体制は管轄する警察署により異なる。

警察署によっては救助の力量が十分でないところもあり、その場合は民間が主導で救助活動を実施している。

○事故報告(各県)

各県ともに昨年度は救助活動実施はなし。

事故、ヒヤリハット報告ともに高齢者が5割以上を占めている。

山行管理(登山の力量の把握)が不十分であることが一因になっている。

事前学習でヒヤリハットの報告が減少した。

17:00~19:00 各県代表者は翌日の行動説明

入浴、食事

19:00~22:00 事故報告

交流会

22:00 就寝

3月12日(日)

下記2班に分かれて搬出訓練実施

○群馬県連山岳会17名 隊長:群馬 武井氏

○群馬県以外の県連山岳会(神奈川4名、千葉6名、茨城2名、栃木1名) 隊長:栃木 森氏

6:30 朝食

7:30 集合

8:05 出発

8:35/8:45 指導センター到着 アイゼン装着、装備点検後出発

この間各班で弱層テスト実施

9:35 マチガ沢到着 探索準備

9:50 ビーコン探索開始

9:58 ビーコンで埋没地点特定

10:05 掘出し開始(掘出し位置間違いに気づき再掘出し開始10:15)

10:20 埋没者発見

10:25 梱包開始

10:35 梱包終了、搬送出発

急傾斜地のため緩斜面までは立木支点のビレイでロープを使用して搬送

10:50 マチガ沢到着

12:10 指導センター到着(搬送終了)

途中トラバース斜面で危険個所ではフィックスロープを張り、ビレイしながら搬送

指導センター直上地点の急斜面では立木支点のビレイをとりロープを使用して搬送

12:20 雪上に支点を作成して懸垂下降訓練

13:30 土合山の家にて反省会

ビーコン探索所要時間(8分)、搬送時間(1時間35分)は少し時間がかかりすぎているが、概ね訓練全体はよし言えるだろう(森隊長)。

記録者の感想

初めての救助隊探索・搬送訓練に参加し、ビーコン探索の実際、プローブの操作、埋没者掘出しと梱包、搬送など、多くの知識・技術を得ることができた。

山の地形を考慮して安全に搬送する方法を即座に選択・実施されている隊員のみなさんの行動はこれまでの経験あつてのことなのだろうと感じられた。そういう活きた技術を身に付けられるよう努力が必要だと実感した。

また、各県のヒヤリハット事例を参考に今後の山行の安全対策に活かすことを検討し、実際に救助・探索活動が必要になった際には会でどう動くのかなども考える必要があると思われた。



晴天無風の谷川岳、マチガ沢



弱層テスト



ビーコン、プローブ検索



掘り出し、発見！



ストレッチャーで梱包



立木支点のビレイで、ストレッチャー下降



急斜面トラバースは、フィックスで安全確保し搬送